

事前相談・終活の流れ



事前のご相談について

普段お葬式のことはなかなか考えることはありません。ましてや、喪主としてご葬儀を行う機会は人生で限られています。不安や悩みをもたれたまま、いざという時が来たら、知識がないことで本当は必要のない不安が生まれ、負担がかかってしまいます。「何をどうしたらいいのかわからない」は当たり前です。だからこそ、不安や悩みを解決し、負担を軽くするには、事前に少しでもお葬式の事を知っていただくことが一番です。

終活について

終活とは、人生の終わりに向けて前向きに準備することで、今をよりよく生きる活動です。自分のエンディングに不安を感じる人や、お子様やお孫様に負担をかけたくないという思いを持つ人が増えております。終活に取り組むことで、今の自分の趣味や仕事・家族との時間を大切にできるという楽しみや、お子様やお孫様に負担をかけずに済む安心感の方が大きくなります。「終活」という言葉は、「残された家族への思いやり」へとつながっていくものなのです。



人生のハッピーエンドのために

ご家族のために考えておくこと

相続

財産や名義について整理し、相続税対策についても検討しておくこと。トラブルを避けるための遺言書の作成もご相談いただけます。



遺言

遺言書には大きく分けて「自筆証書遺言」と「公正証書遺言」の2つがあります。自筆の場合、形式が不備で無効となる場合がありますので、専門家にアドバイスしてもらう必要があります。



保険

生命保険や年金保険などは、本人が亡くなった後、家族が請求手続きをします。家族の今後の生活のために残したものですので、もれなく請求できるようにしておきましょう。



葬儀

葬儀のスタイル、規模、かなえてほしい希望などをまとめて、家族に伝えておきます。誰を呼んでほしいのか、連絡先のリストも作っておくと家族はとても助かります。



墓

お墓についても先祖代々の墓に入りたいのか、新しく建てたいのか、納骨堂や散骨を選ぶのか家族の維持管理のしやすさも含めて検討しましょう。



介護

寝たきりになるなど介護が必要な状態になったらどうしたいのか、またそのための費用はどのようにするかなどについても準備をしておくことで安心です。



危篤を告げられた時

お見送りまでの道しるべ

ご遺族の方にとって、危篤・臨終から葬儀に至るまでの、言わば初めて経験する事柄ばかりの状況でも、決定しなければならないことが多くあります。

悲しみと不安の中で、考える余裕もないままに準備されることがないように、また悔いが残らない葬儀にするためにも、事前にある程度まで準備されることをおすすめします。

不安に感じられることは、すべて私ども担当者におたずねください。

ご葬儀の事前準備の段階では

葬儀社を決める

- 対象エリアの葬儀社を調べる
- 2社ほど葬儀社から資料を取り寄せたり、対面相談をしたりする
- 資料や、対面相談から1社に絞る
- 葬儀社の連絡先を携帯電話に登録する

ご会葬者を決める

- 喪主を決める
- ご会葬者リストを作成する

■ 喪主の役割・仕事

葬儀の形式や日時、費用に関することを関係者と相談のうえ決定します。また、故人様の宗派の確認や、菩提寺の有無を把握したうえで、お葬式で読経していただく寺院へ連絡をします。通夜や葬儀・告別式中では、喪主として挨拶をする場面が何度かあります。

宗派を確認する

- 葬儀を進行する宗教、宗派を確認する
- 戒名、墓の有無を決める

■ 宗教、宗派とは

仏教を始めとした宗教には、それぞれの教義によって宗派が分かれております。宗教・宗派はそれぞれ異なる特徴を持っており、また異なる経典が使われておりますので、特に葬儀の場ではその差が現れます。

ご危篤時、ご逝去時の準備をする

- ご逝去に立ち会ってほしい人のリストを作成する

ご搬送、ご安置場所について考える

- ご搬送時に立ち寄る思い出の場所を考える
- 安置場所を決める(ご自宅や安置施設のある式場)

■ ご自宅に安置する場合の 注意点

仏式では、北枕や枕飾りの整え方などのしきたりがございます。また、出棺時のことも考えて間口を広く取れる部屋を選び、日常の細かいものなどは別の部屋に一時的に移動させておくのがよいでしょう。

葬儀の内容進行について考える

- 式場を決める
- 弔辞(お別れの言葉)を読んでもらう方を考える
- 席順を考える
- 遺影写真の候補を選んでおく

■ 席順の決め方

お通夜や葬式における席順にも上座と下座があり、祭壇に近い方が上座となります。お葬式の場合は喪主や遺族など故人様と縁の深かった人が上座に座ります。多くの場合は席が左右に分かれていて、祭壇に向かって右側が喪主・遺族や近親者、親族など血縁のある人たち、左側は葬儀委員長(世話役代表)や姻族、友人知人、会社関係者など、その両方の後方に一般会葬者と並ぶのが一般的となりますが、メモリアでは、祭壇に近い上座に喪主・遺族や近親者、親族など血縁のある人たち、後方にその他の方をご案内しております。

死亡手続の準備をする

- 本籍を調べる
- 認印を用意する

費用の準備をする

- 予算と費用の捻出方法を考える
- 現金を準備しておく

お亡くなりになった時

危篤とご臨終

臨終に立ち会って欲しい人に連絡する

葬儀社に連絡をする

寝台車がお迎えにあがる
場所・時間を打ち合わせる

■ お電話いただくと…

「誰が」「いつ」「どこで」「お帰り先(故人様を安置する場所)」「宗旨」等をご確認させていただきます。

24時間365日お迎え可能。病院の処置が終わるころにお車を手配いたします。



葬儀に参列してもらいたい人に連絡する

- 亡くなったことと、ご葬儀の詳しい日時などは改めてお知らせする旨を伝える

病院、施設を出発する準備をする

- 死亡診断書を受け取る
- 医療費などのお支払いの説明を受ける
- 荷物をまとめ、寝台車を待つ



葬儀社が到着したら

葬儀社のスタッフが到着したら

- 死亡診断書を葬儀社スタッフへ
- ご安置の場所を打ち合わせる
- 故人様のご移動は専用のストレッチャーと搬送車でスタッフが行います
- 寝台車に案内役のご家族に同乗いただきます
- ご希望に応じて思い出のルートに立ち寄ります



ご安置場所への到着

ご安置

- 故人様を、北枕または西枕に安置
- 枕元にはローソク、線香、檜等の枕飾りを準備
- ご寺院への連絡



各セレモニーホールに安置室をご用意しております。

ご自宅の場合は家の中を整えます。

神棚は半紙で封じ、慶事ものなどは片付けます。

※宗旨宗派によって異なります。



お葬式について決めていく

通夜・告別式の日時と場所を決める

- ご家族・ご親族の都合を確認する
- ご会葬者の範囲、おおよその人数をきめる
- 宗教家の都合を問い合わせる
- 式場・火葬場の空きをスタッフが確認
- 訃報連絡を作成し、お知らせする
- 死亡届など公的な手続きをする
- 喪主様を決定する(葬儀委員長)

■ お葬式の日程を決めるには
お葬式を行う日には、火葬場や、お葬式を行う式場の空き状況、ご出仕いただくお坊様のスケジュールなどを考慮して決めることとなります。

葬儀プランと金額を確認する

- 式場、火葬場の使用料金
- 祭壇
- 棺
- 納棺士による湯灌や納棺
- 仏衣
- お着替えやメイクなどの処置
- 料理
- 返礼品
- 会葬礼状
- 看板や道案内看板
- ご会葬者様のおもてなし
- 式場装飾イメージ
- 火葬場への移動手段

■ さまざまなご要望にお応えできます
祭壇のお花は、故人様が好きだった花等を飾ることもできます。また、プランによってはお花で故人様を表現するアレンジを加えることもできます。



■ 「おとき」から「精進落し」まで
「おとき」は、お葬式の前に食べる食事のことです。一同で故人様との最期の食事をする意味があります。
「精進落し」は、ご遺族様とご親戚が揃ってご葬儀を終えた後に、普段の食事に戻って肉や魚類の食事および飲酒などをするをいいます。



おとき



精進落し

お葬式について決めていく

スケジュール・式次第を確認する

納棺の儀

通夜

告別式

出棺

火葬

■「納棺の儀」を行う意味

納棺とは、通夜の前の時間に故人様を白装束で整え、生前に愛用していたものなどとともに棺へ納める儀式のことです。多くの参列者が訪れる前に、近親者だけで故人と向き合うための時間として非常に重要な役割があります。



■通夜の目的と意味

本来は、葬儀前夜に一晩中ろうそく・線香の火を絶やさぬよう付き添い、故人様との別れを惜しみ、冥福と成仏を祈る儀式でした。最近では一般の弔問客も参列し、短時間で済ます半通夜という形が多くなっています。そして葬儀や告別式に参列出来ない人がお別れをする場という意味合いが大きくなっています。



式の内容についての打ち合わせ

遺影、思い出の写真

思い出コーナー

音楽

弔辞

通夜・葬儀でのご挨拶



「葬儀」と「告別式」

「葬儀」は、本来は故人様をお見送りするための儀式となり、宗教儀礼によって執り行われます。「告別式」とは参列または会葬した人たちで、焼香や献花をもって故人様に対してお別れをする儀式のことです。

その他に決めること

- ご町内さまとの打ち合わせ
- 香典返しの手配 (当日返しの場合)

香典返しは、一般的には手元に残らない消えものが良いとされています。また、香典返しを贈る場合、一般的にはお礼状を添えます。本来であれば先方に伺い、香典返しを直接渡した上でお礼を述べるのが丁寧ですが、それができない場合のためにお礼状が用いられます。



- 供車(タクシーやバスなど)の手配

葬儀会社の式場や、ご自宅などでのお葬式の場合、火葬場までの移動のためタクシーまたはマイクロバスの手配をします。その際に、霊柩車やどのタクシー・バスに誰が乗るのかを決めておく必要があります。



- 通夜、おとし、精進落しの料理、飲み物の手配

人数の多寡はもちろん、若い方が多い、高齢の方が多くなどご参列いただいた方の年齢やお好み、さらに気軽なオードブル形式からおもてなし重視の懐石料理など、ご予算や趣向にあわせていかようにもご用意いたします。



- 生花、枕花、大楯、果物籠などのお供え物の手配

生花

ご親族や職場の方、ご友人など故人様との関係が密な場合に、香典のほかに供花や供物をお供えすることがあります。

枕花

身内や、故人様と生前に関係の深い方が追悼の意を込めて故人様の枕元にお供えをします。

大楯

ご主人又は奥様の御在所元からお出しいただき、門前に飾ります。

果物籠

御供物としての果物籠は、祭壇内や葬儀会場などにお供えします。



生花



枕花



大楯



果物籠

- 通夜、葬儀の受付係など、世話役や各係の決定
- 会葬者用特設テントや、椅子、冷暖房器具などの手配

※宗旨宗派によって異なります。

お通夜の流れ

一般的なお通夜の流れ

- ご納棺の儀
- 式場での準備
- 受付開始／
一般のご会葬者様のご到着

■ご納棺の儀とは

布団やベッドにご安置した故人様を旅立ちの衣装である死に装束に着替えさせ、棺に納める儀式です。故人様の旅立ちの支度をするのは辛く悲しいことですが、亡くなられたことを受け止めるための大切な儀式です。



- 宗教家様ご到着
- 式場内ご着席
- 通夜式開式
- 読経
- ご焼香
- 宗教家様ご退場
- 通夜式閉式

■通夜式の時間の目安

お亡くなりになられてから少なくとも24時間が経過するまで、火葬をすることは認められていません。そのため、お通夜の儀式は多くの場合亡くなられた翌日に執り行われ、最短で当日に執り行われます。



- ご親族お食事
- 故人様との面会

■ご親族のお食事例

一般的に「通夜振る舞い」といわれるお食事は、通夜が終わった後にいただくことになります。この場合、寿司や揚げ物、煮物といった料理が大皿で出されることが多く、お酒が供されることもあります。



- 翌日のお葬式のご確認
- 宿泊の方を除き、ご帰宅

■翌日のお葬式のご確認内容

ご焼香される方の順番の確認とお名前の確認や、告別式の席次や弔電のお名前や会社名などの確認も行います。また、おときや精進落しなどお食事の最終人数の決定など、翌日おこなわれる告別式のご確認を行います。



お葬式の流れ

一般的なお葬式の流れ

- ・ご家族集合 お斎
- ・担当者打ち合わせ
- ・受付開始
- ・宗教家様ご到着
- ・式場内ご着席
- ・葬儀式開式
- ・弔辞
- ・ご焼香
- ・喪主挨拶
- ・葬儀式閉式
- ・宗教家様ご退場
- ・最期のお別れ
- ・ご出棺、火葬場へ
- ・ご火葬
- ・ご収骨
- ・式場へ戻り初七日法要
- ・精進落し
- ・ご親族様解散、ご自宅へ
- ・後飾り

■ お斎(おとき)のお料理
葬儀の前に食べる食事のことです。一同で故人様と最期の食事を
する意味合いがあります。



■ ご焼香の作法
ご焼香の作法は、宗派によって違いがあり、相手の宗派に沿って
行うというほうが丁寧ではありますが、自分の信仰している宗派
があるなら、その宗派に沿ったやり方でも問題ありません。

■ 初七日の意味と精進落し
仏教の教えにおいて、故人様が極楽
浄土へ行けるようにと、亡くなってから
七日ごとに供養を行います。
※宗派により考え方の違いがあります。
四十九日法要までの期間を「中陰」
と呼び、その最初の7日目に行われる法要を「初七日法要」と
言います。
最近では葬儀と同日に初七日法要を行う、「繰り上げ法要」、
「繰り込み法要」という形で供養を行うことがほとんどです。



■ 後飾りの意味と内容
後飾りは、小机や箱などに白い布を
かけて作った小祭壇の上に、遺影、
花、線香、供物、燭台などを置いた
もので、火葬場から遺骨と位牌が
着いたら、この上に忌明けまでの
間、安置します。



- ・担当者によるその後の手続きの説明

■ お葬式後の手続き内容

社会的なもの、供養に関するもの、法律的なものの3種類に大きく分かります。

社会的な手続き

主に近所や故人様の勤務先、
お世話になった人、お寺などへ
の挨拶回りになります。

供養に関する手続き

すぐに四十九日法要の準備
が必要になります。会場の手
配やお寺への依頼、香典返し
の発注などがあります。

法的な手続き

遺産分割をはじめとする法律的な手続きも進めなくてはなり
ません。手続きには複雑な面がありますので、弁護士や公共
の法律相談機関などに相談します。また煩雑な手続きは、司
法書士や税理士に手続きを代行してもらおうとよいです。



お葬式が終わったら

各種お手続き・ご供養

各種手続き

葬儀後の各種手続きには、申請期間が決まっているものもあります。そのため、ご遺族の皆様が各手続きや届け出を行えるように私たちがサポートします。



相続

故人様が所有していた預貯金や不動産、株券などは死亡後に整理・名義変更する必要があります。手続きをお手伝いする弁護士や税理士など、専門家をご紹介します。



遺品整理

遺品の整理は単なる片づけと異なり、残す品と片づけをする品を選別しながら整理する必要があります。そこで、ご遺族に代わって片付けを行うサービスをご紹介します。



法要

故人様を偲び、ご供養をするための行事となります。法要に必要な案内はがき作成や料理、場所の手配などを、すべて私たちがサポートします。



お仏壇、お墓

仏壇やお墓は、ご先祖様や亡き方を偲び対話していく心のよりどころです。宗派や、現代の多様なライフスタイルに合わせた、さまざまな様式のものをご案内させていただきます。



お葬式が終わった後の各種お手続きやご供養も、
私たちがすべてサポートいたします。

こんなこともご相談ください

宿泊先の手配

遠方から来られる方々の宿泊先を、喪主様が探して手配するのは大変な事です。手配を無料で代行し、喪主様の負担を軽減いたします。



喪服のレンタルと着付

喪服は各種サイズを取り揃えております。レンタルや着付をご希望の際は、手配いたします。



弔電・供花の順番、席順のご案内

弔電や供花をご紹介する順番や、ご親族や参列者の席順など、失礼がないように担当者がしっかりとご案内します。

弔意の受け方

家族葬を希望される場合など、香典や供花をご辞退されるときは、弔意を表したい方々に失礼のないよう、対応方法や留意点についてご案内いたします。

お手伝いの方へのサポート

受付や会計、案内などは、親しい方に依頼されることが多いので、お手伝いの方にスムーズに対応していただけるよう、弊社のスタッフがサポートいたします。

料理返礼品の手配

お通夜・葬儀に参列される方の人数は、予想外に増えることがあります。喪主様に確認のうえ、お料理や返礼品などを準備・手配いたします。

喪主様の挨拶

ご遺族の代表として、ご会葬者や僧侶へのお礼、ご挨拶、おもてなしをするのが喪主様の役割です。喪主様のご挨拶は、お集りいただいた方に感謝の気持ちが伝わるのが大切です。お気持ちをうまく表現できるよう、内容のご相談も承ります。

ご出棺後のサポート

喪主様は、告別式の後、霊柩車とともに火葬場へ出発します。火葬場に同行しないご会葬者には、スタッフが喪主様の代わりにお礼を述べ、ご希望の方にはタクシーを手配いたします。お集りいただいたすべての方が、最後まで気持ちよくお過ごしいただけるよう配慮しております。

後飾りの祭壇の設置

火葬の後、自社のスタッフがご自宅に同行し、骨壺などを飾る後飾り祭壇を設置いたします。一般的に、遺骨は四十九日の忌明けまで祭壇に安置し、弔問のお客様にもお参りしていただきます。後飾り祭壇を設置した後も、気になることがあればお問い合わせください。